

---

情報番号：教育技法―7  
テーマ：インバスケット  
編著者：IBEX-T

## 1. インバスケットとは

インバスケットは、管理者が業務上で使っている決裁箱（未決，既決）のことを指すが、研修では管理者向きの意思決定や問題解決のための技法を指す。現在はインターネットでの決済処理が多くなり、決済箱そのものがなくなりつつあるが、技法としてはまだまだ健在である。別名イン・トレイ（In Tray）ともいう。

この技法は、プリントン大学において 1952 年に教育効果測定のための技法として開発されたが、その後、研修技法としても効果があることがわかり、次第に企業内研修の中でも活用されるようになった。

案件処理のための研究討議法で、特定の管理者の立場に立って、インバスケットにある報告書や伝言、手紙、申請書、業務メモなどの未決裁案件を、設定された時間内に「制約された条件下」で、自分の判断で必要な処理を行ったのち、それをグループメンバー同士で評価、検討していく。つまり日常の管理業務処理の模擬体験を通じて、意思決定力や問題解決力を高めていくことをねらいとする。